

伊豆稲取のんびり 1泊2日
温泉三昧と海鮮賞味

神山清英（東京都新宿区）

伊豆半島東海岸の漁港、伊豆大島を目の前にみる稲取で、のんびりと1泊2日の温泉三昧と海鮮賞味の旅を楽しみました。1月下旬の稲取の行事は、雛飾りの展示とつるし飾りで、街中の数か所で公開されていました。これがご自慢の恒例行事で、華やかで豪華な雰囲気醸し出していました。今回の旅は、のんびりとしたスケジュールの中ながらも、ミカン狩りや歴史観光なども織り込んだ充実した旅でした。



日時：2019年1月28日（月）～29日（火）
宿泊費：¥20,000円（宴会や観光などの費用を含む）
下車駅：伊豆急稲取駅（伊豆半島東海岸）
参加：15名 神山清英、田辺年隆、星 俊臣、安村恵子、笹野 實、笹野美代子、磯崎 晃、堀江美保、國分朋子、國分光洋、山本浩二、宝田正志、西村美津代、田代嘉宏、島田貢代、中条裕子、栗林昌枝
集合：伊豆稲取駅 当日午後1時35分
宿泊：伊豆いなとり荘（温泉専用別棟あり）
リーダー：神山清英

日程：第1日午後 稲取町「つるし飾りとお雛かざり」；むかい庵、文化会館での展示鑑賞、かや寺参拝；樹齢750年のかやの木、消災の道、摩尼車、本殿参拝、
第2日午前 稲取町「ミカン狩り」；ミカン園ふたつぼりで伊予柑とはるかの収穫、「つるし飾りとお雛かざり」；ふたつぼりの民家での展示鑑賞
第2日午後 伊東市 「歴史観光」；歴史建造物東海館の見学、木下奎太郎記念館での業績を勉強

◆伊豆稲取 つるし飾りとお雛かざり



メイン会場が数か所
にあり、海に面した「む
かい庵」、街中の「文化
公園雛の館」、山腹の
「ふたつぼり」を巡り
ました。

つるし飾りは伝統的な物をかたどり、色とりどりの布製でつくり天井から下げた紐に吊り下げてありました。大きい飾り、かわいい飾りなど会場毎に、吊りさげ毎に趣を異にしていました。一つの飾りの製作に数時間かかるのとこと、これだけの数をそろえるには毎年の積み重ねの賜物だそうです。現代風のキャラクターがあったり、海の中をイメージしたものがあって、つるし飾りも時代につれて変っていくようです。また日本3大つるし飾りとして、柳川、酒田にもあり夫々趣を異にしています。



◆伊豆稲取 つるし飾りの体験工房「絹の会」



つるし飾り作りを体験できる工房がありました。材料の布などが用意してあり、お好みのつるし飾りを自分の手で創り上げることができます。

◆稲取 済広寺（かや寺）

寺内に一步踏み入ると、左手に樹齢750年を超える「かやの木」がありました。すぐにタッチして、パワ－をいただきました。本殿には懺悔の仏が、鎮座していました。そして右手の階段を降りると、真っ暗な空間で難を落とす「消災の道」があり、右手の壁を触りながら手探りで歩いて光のありがたみを感じる時でした。“干支占い”ができる摩尼（まに）車では、気になる運試しをしました。



◆伊豆稲取 いなとり荘 全室オーシャンビュー

伊豆半島東側を南に下がった、道路を挟んで海岸に面した大きな宿でした。部屋の海に面した枠なしの大ガラス窓からは、一幅の絵画の趣で波頭の碎け、遠望の伊豆七島、日の入りや日の出の光のショー、そして夜の月や星の輝きを鑑賞しました。特に、夕日の茜と海に突き出た山の重なり陰影、夜の海を明るく照らす中天の月と金星のキラメキ、海からの日の出の輝きを堪能しました。



◆伊豆いなとり荘 絢爛豪華な夕食

お目当ての海鮮夕食を、ワールドステイクラブ借り切りの大広間でたっぷり堪能しました。出てきたお料理は、次の通りで満腹となりました。サザエのつば



焼き、アワビの踊り焼き、伊勢エビと真鯛のお造り、刺身の盛り合わせ（まぐろ、はまち、イカ、アジ）、金目の煮つけ、カサゴの一匹まる揚げ、茶碗蒸し、赤だし、キノコごはんなどです。もちろんビール、日本酒、焼酎なども賞味しました。



◆伊豆いなとり荘 さわやかな朝食バイキング

バイキング形式で、和洋取り揃えてありました。金



目の干物あり、アジの干物ありで、堪能しました。朝食ですがイカサシがあり、納豆と和えてのイカ納豆はうまみたっぷりでした。

ソーセージ、パン、ヨーグルト、コーヒー、リンゴジュースなどの洋食スタイルも充実していました。

◆稲取 ミカン園「ふたつぼり」収穫体験

ミカン園の木なりの色づいた実をハサミで収穫し、その場で味わいました。種類は、やや大きめの柑橘類の伊予柑とはるかです。赤みかかった伊予柑は、甘みが濃いものでした。はるかは、ニューサマーオレンジの変種だそうで、明るい黄色の皮で味はさわやかでした。食べただけ腹一杯、その場でいただきました。

ミカン園は海に面した南斜面の山の中腹にあり、眺望絶景でした。伊豆七島の利島、新島、三宅島などが遠望でき、青く澄み渡った青空の下の爽快そのもののミカンの賞味でした。



◆伊東 東海館 歴史建造物を鑑賞

昭和初期に建築された木造の建物で、本来は温泉旅館でした。平成9年に廃業したものの、当時の職人たちが腕を振るった自慢の建物なので伊東市が末永く管理することになりました。



客室の一つ一つにそれぞれ趣向を凝らし、部屋ごとに庇を設けた玄関になっていました。桧や杉などの高級な木材や、変木とよばれる形の変わった木々をふんだんに用い



てありました。廊下や階段、客間の入り口など、館内随所に職人たちの手工を凝らしてあり、伝統的な日本の建築様式を心ゆくまでまさに堪能しました。この大広間には、季節の先取りのお雛様が所せましと飾られていました。眼福の極みでした。



◆伊東 木下李太郎記念館 業績に感心

本名太田正雄で伊東市出身です。医者、詩、文学、美術など広い分野で活躍したまさに多方面で活躍した



方でした。記念館の展示は、著書、絵画、遺愛品、写真、交流のあった文学者等の書簡や作品などがありました。



展示室の奥は、天保6年(1835)に建てられた当時の状態が保存されていました。伊東市内の最古の民家として市指定文化財となっていました。

また、実兄の太田圓三は東京帝大を卒業した土木技術者でトンネル工事や関東大震災の復興院土木部長として活躍し、現代に続く近代都市東京をデザインしその礎を築いたそうです。

◆稲取 江戸城改築に用いられた巨石



江戸幕府開闢の初期、江戸城の改築がありました。その際に城壁などに使われた巨石が、ここ稲取からも江戸に運ばれました。安山岩の巨石で、運ばれずに残ったものが町中に展示されていました。

稲取駅前の広場に、石の切り出し、直方体への加工、移動、船積みなどの様子が絵図と実物での説明がありました。むかい庵の近くの和菓子屋さんの店先には、巨石が2本鎮座していました。稲取駅前には、その加工などの様子が描かれていました。街中の文化公園では、巨石の展示とともに詳しい由来の立て看板がありました。



◆稲取 きんつば 巨石にちなんだ和菓子



町中に昔チックな和菓子屋さんがありました。ここでは、江戸城改築の巨石に見立てた、「きんつば」が置いてありました。早速買い求めたところ、中は粒あんで、甘みしっとりというところでした。

◆伊豆急 キンメ電車 赤い車体に帯がキンメ

東海道線熱海駅からの伊東線、さらに南に伊豆半島の東海岸を下田にまでゆく伊豆急線を直通で走る電車です。稲取が金目の水揚げの本家本元にちなんだ、にぎやかな7両編成の電車でした。車内に入ると、窓上の天井近くにもキンメのデザイン画が並んでいました。先頭車両は展望車、座席は海側に向いているユニークなものです。このユニークさで、鉄道友の会のブルーリボン賞を受賞しています。

伊豆半島東海岸を走る電車には、ほかにも黒船電車があります。伊豆下田に來航したペリーにちなんだもので、黒色塗装の電車です。



◆稲取 キンメが道路に

稲取漁港に揚がる金目が、本家筋のど真ん中。それにちなんでか、道路にも金目がいました。



感想

國分光洋 (東京都杉並区)

稲取の 春雨のごと 吊るし雛

稲取の吊るし雛がここだけに長く残されていることに、なぜだろうと不思議に思いました。

大海の 波寄する音 旅の宿

稲取荘の窓からの眺めは太平洋の空と海、水平線が一直線に走る雄大な眺めが広がります。

みかん狩り 子供にかえり 一心不乱

冬空の下、みんなで蜜柑狩りの初体験、とても楽しい心に残る思い出になりました。

手探りの 消災の道 濟広寺

真っ暗な寺の地下を手探りで歩く陰陽の極み「闇参り」はとても危険で怖く外の光が見えたときは、ホッとします。

日本建築東海館の文化施設、百畳敷の大広間、一戸建風の客室の歴史あるしつらえは日本建築の美しさを実感できる。また各階に通じる階段に使用されている檜の一枚板は、なかなか踏みごたえのあるものです。最上階の「望楼」からの眺めは、すばらしく遠くに海

を望み眼下に松原の町を見ることができます。

木下杢太郎記念館、木下の誕生の地、幼いころからの杢太郎の天才ぶりを忍ぶことができます。医者であり、文学者であり、植物学者、画才に恵まれたスーパーマンです。かやの寺、樹齢七百五十年の大樹があり伊豆のパワースポットに指定されている。霊気に触れパワーを貰いました。

田辺年隆（千葉県船橋市）

グルメを堪能し、歴史勉強する旅行に参加できて感謝いたします。鮑の踊り食いなど初めての経験で、おっかなびっくりナイフとフォークで食べました。鍋の中を確認し、鮑が蓋にくっついて入ってないじゃないかと心配した人もいましたが、どっこいしっかり存在してました。サザエは大きく太くて、噛み応えがありスープもしっかり戴きました。お刺身も新鮮で、魚のから揚げも全部食し、お腹いっぱい胃拡張を心配するほどでした。金目鯛の煮付けはイマイチかなと、思った点以外十分満たされました。

お風呂には夜と朝から合計3度も入り温まり、満喫してよく眠むれ同室の方に迷惑かけながらボタンキューで疲れが取れたと思います。翌日もみかん狩りですっきりと食し、はるかのさっぱり味と伊予柑の甘味が別腹を満たしました。歴史勉強では、江戸城の大石運びの苦労や、木下杢太郎記念館で新たな情報を知ることができ感銘を受けました。何度も伊東には行っていますが、杢太郎記念館を見学したのは初めてで良かったと思います。

山本浩二（千葉県浦安市）

みかん園は印象的でした。雲一つない真っ青な空のもと、暖かい日差しをたっぷり浴びた伊予かんとはるかの美味しかったこと。とくにはるかがとても気に入りました。お土産に持って帰ったところ、妻も大感激でした。宿は「いなとり荘」という名前から民宿っぽいかと勝手に思っていたところ、とんでもない。お風呂は立派で眺望もすばらしく、それに二つもあり夕方と翌朝とそれぞれゆっくり堪能いたしました。食事でも大感激。本当に久しぶりにいただくアワビの踊り焼き、それにキンメの煮付けが美味しかったです。今でも口に広がる味を思い出します。

入会して間もない私に、皆さまが温かく接していただき、車中の会話がおもしろく、とても楽しかったです。お子様たち、お孫さんたちとの幸せいっぱいの皆

さまのご家庭が眼に見えるようでした。とても楽しい伊豆稲取の二日間でした。ありがとうございました。

宝田正志（静岡県静岡市）

稲取旅行～とくにつるし雛飾りについて～

稲取温泉は、この時期温暖な気候と伊豆諸島を眺望する絶景、つるし雛飾りと金目鯛などで知名度が高い保養観光地の一つである。静岡県内では県内各地でつるし雛飾りが見られるが、稲取はとくに有名で毎年のローカルニュースでも放送される。

稲取温泉のつるし雛は江戸時代後期から伝わる風習と伝えられる。豪華なひな壇飾りを買って求められない一般庶民が、端布を手縫いで作成した縫いぐるみを、子女や孫娘の無病息災と良縁を願って桃の節句に合わせ伝わたとされている。縫いぐるみはさる（厄が去る）巾着（お金に困らないように）花、手まり、金目鯛（お目出度に欠かせない）だるま（七転び八起き）など百種以上あるとされ各々に意味が込められている。

今回は本場稲取で、数箇所大きな豪華絢爛たるつるし飾りを見ることができた。全国でも稲取の他、福岡柳川ではさげもん、山形では傘福と呼んで吊るし飾りの風習があるそうで三大ひな飾りとされているそう。現在では、競っているかのように一見豪華に見える吊るし飾りも、由来は庶民の伝統風習文化であることを知って一層の親近感を覚えた。

笹野實・美代子（東京都調布市）

～伊豆旅行こぼれ話～

一泊旅行ながら幹事さんのご配慮で幾つもの観光スポットを回ることができました。それらの見聞記はダブるので、私は二、三のこぼれ話を紹介します。

帰途伊豆急の車中で話好きの中年女性と同席した。どうやらパートの旅館従業員の様子。伊東より下田までに点在する観光地は、平日の集客に苦労しているとのこと。近年中央大手や外国資本による一泊9,800円ホテルが伊豆急沿線にも進出、既存の旅館ホテルを脅かしている。その点私たちが宿泊した稲取は、いまのところはまだ大丈夫とのことでした。沿線住民は高齢化が進み、買い物、病院に苦労しているそうで、「限界集落」という言葉をたびたび口にした。陽光溢れる温暖の当地で、この言葉を聞こうとは正直思わなかった。

バブル最盛期に1億円で売り出した伊豆の高級リゾートマンションを、その後3,000万円で買った知人がいる。しかし管理維持費、税金が月9万円かかるそうで、息子さんから相続する前に処分してくれと言われていたそう。

やっぱりWSCの皆さんと一泊ないし二泊の旅を楽しむのが、気楽でいいですね。